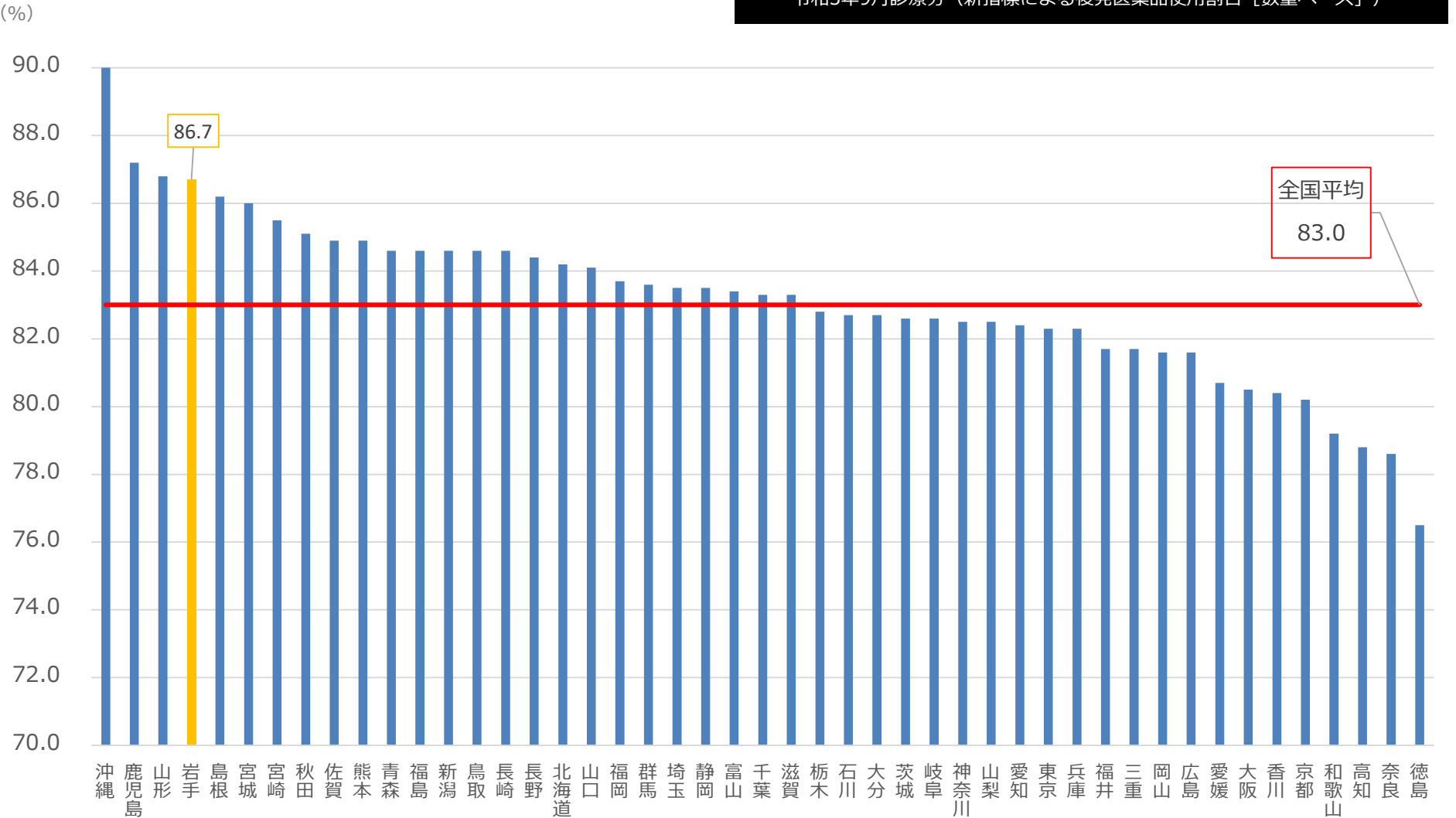


ジェネリック医薬品の使用割合 (二次医療圏別・薬効分類別・年代別分析)

令和5年9月診療分（新指標による後発医薬品使用割合〔数量ベース〕）



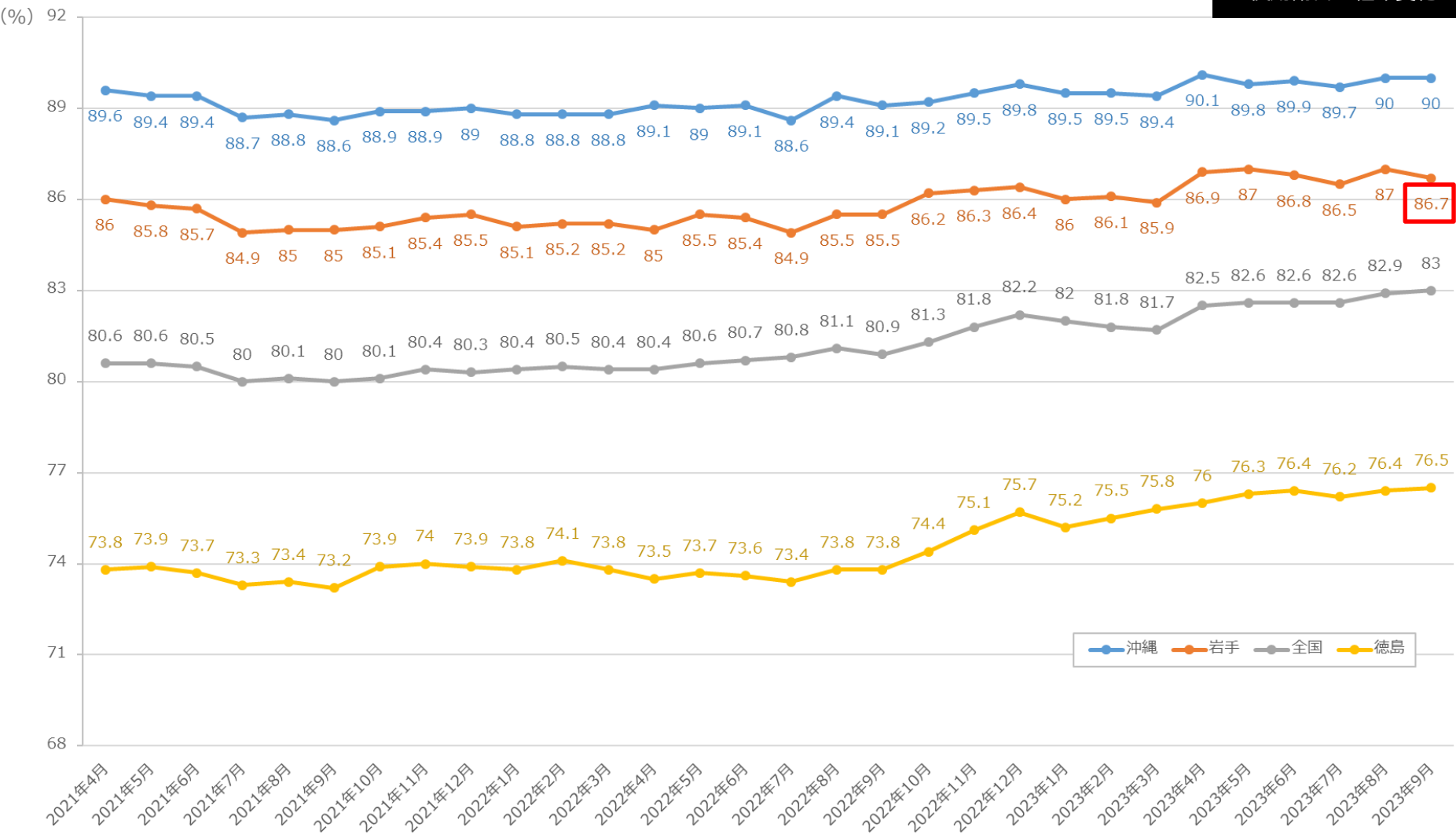
注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。

注2. 「新指標による後発医薬品使用割合（数量ベース）」は、 $\frac{[\text{後発医薬品の数量}]}{([\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])}$ で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。

注3. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。

●沖縄支部（使用割合1位）・岩手支部・全国平均・徳島支部（使用割合47位）を抜粋

使用割合の経年変化



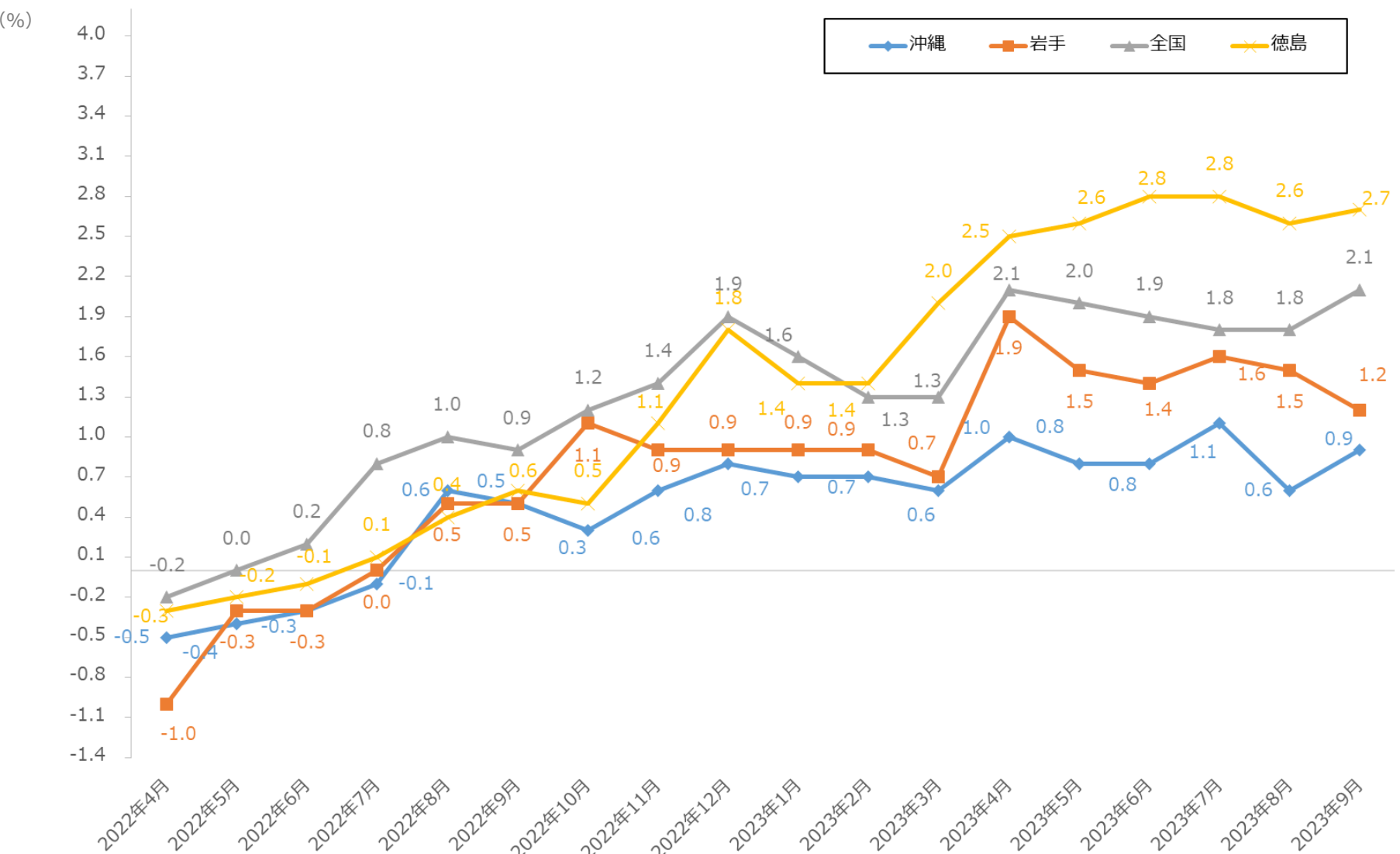
注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。

注2. 「新指標による後発医薬品使用割合（数量ベース）」は、[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。

注3. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。

ジェネリック医薬品使用割合（数量ベース）の対前年同期差（%ポイント）

●沖縄支部（使用割合1位）・岩手支部・全国平均・徳島支部（使用割合47位）を抜粋



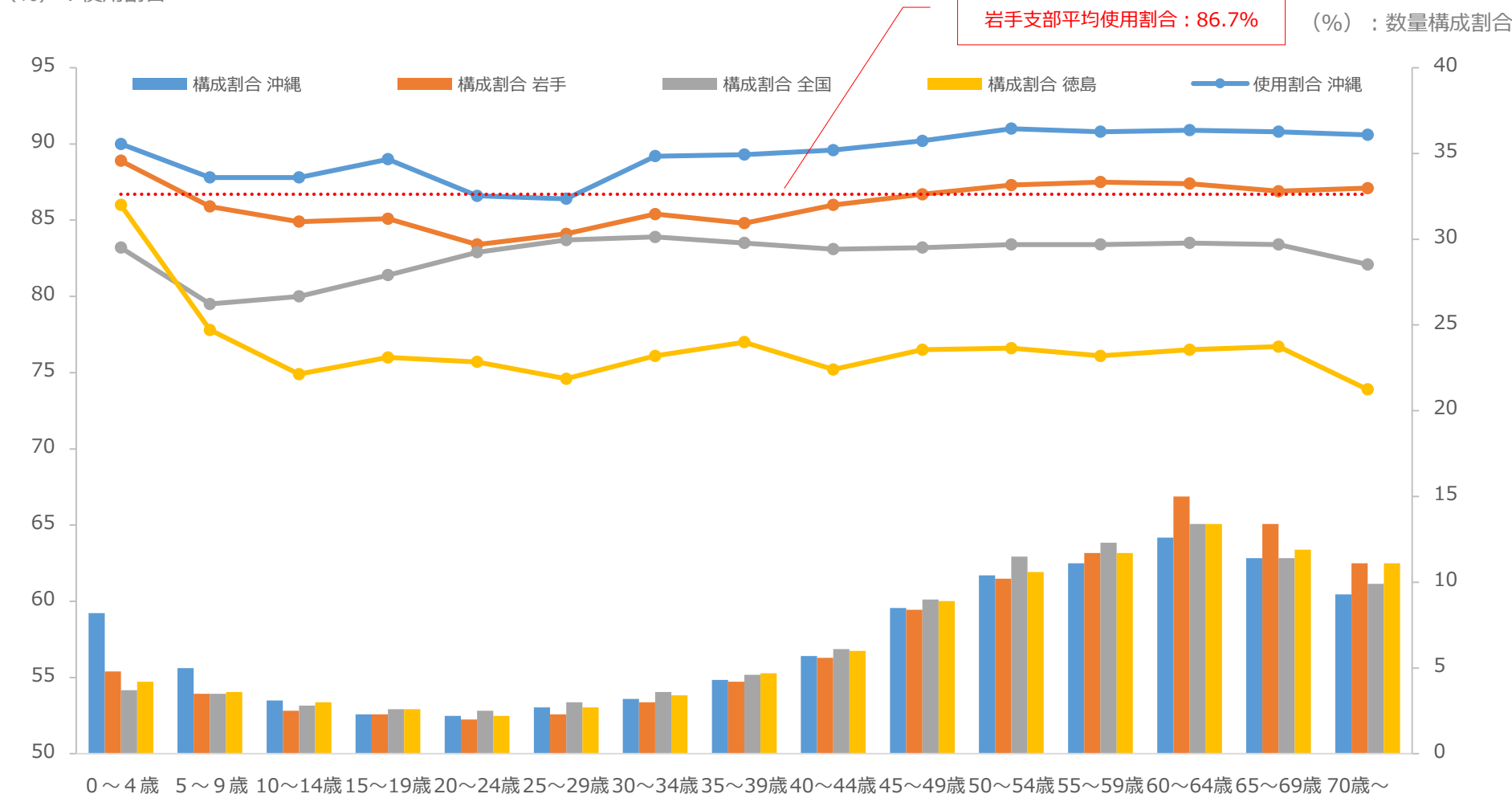
注1. 協会けんぽ（一般分）の内科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）なお、DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。

注2. 「新指標による後発医薬品使用割合（数量ベース）」は、[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」に基づいて設定している。

注3. 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。

●沖縄支部（使用割合1位）・岩手支部・全国平均・徳島支部（使用割合47位）を抜粋
(%)：使用割合

令和5年9月診療分

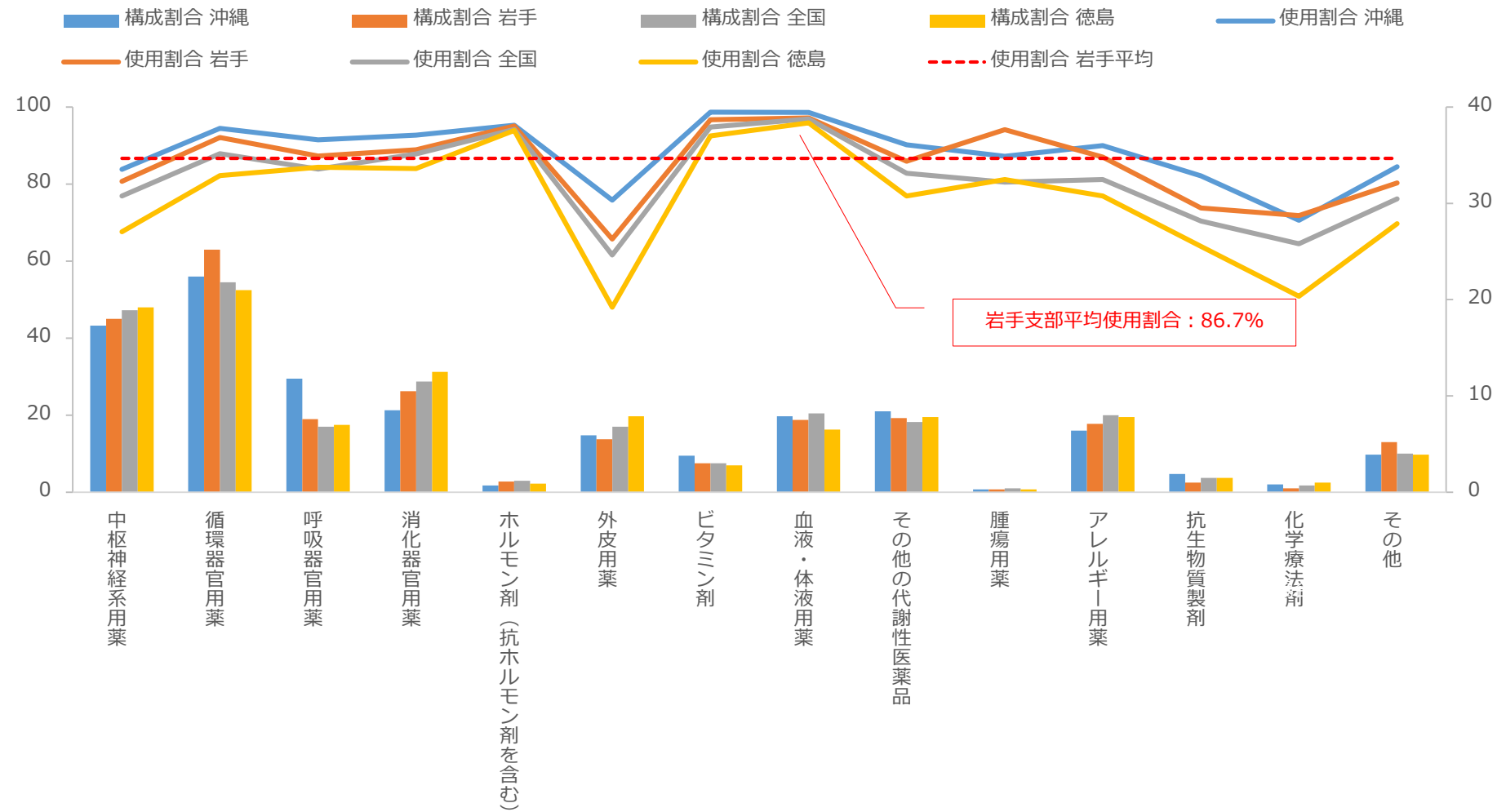


注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したものである。
注3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。
注4. 「新指標」は、[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。
医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

● 沖縄支部（使用割合1位）・岩手支部・全国平均・徳島支部（使用割合47位）を抜粋
(%)：使用割合

令和5年9月診療分

(%)：数量構成割合

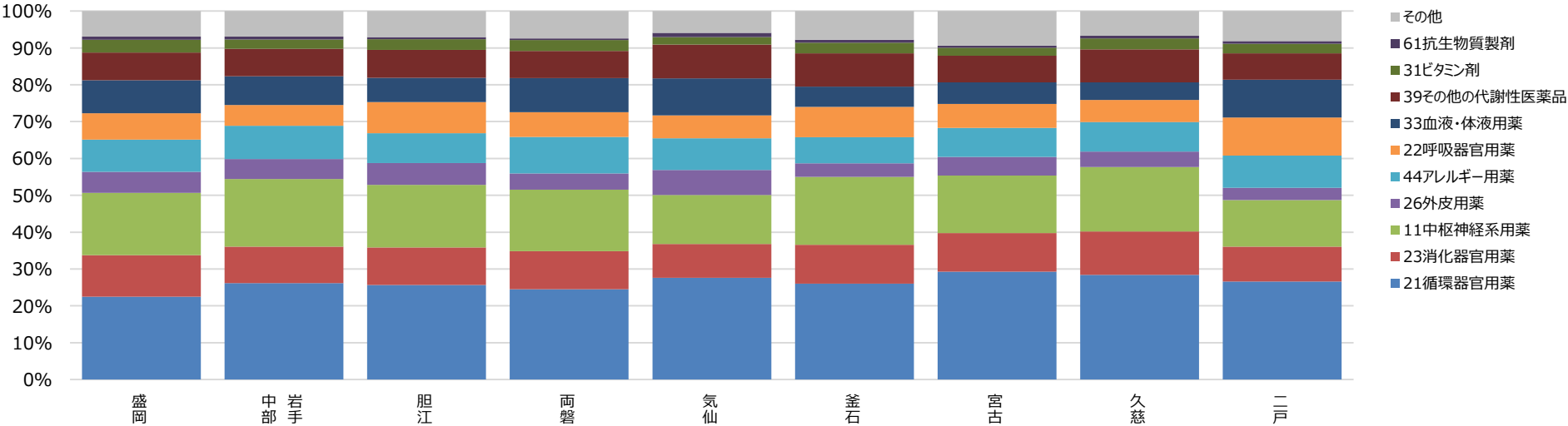


注1. 協会けんぽ（一般分）の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。（ただし、電子レセプトに限る。）
注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したものである。
注3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。
注4. 「新指標」は、[後発医薬品の数量]／（[後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量]）で算出している。
医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

○令和5年4月診療分 使用割合

二次医療圏名	平均	中枢神経系用薬	循環器官用薬	呼吸器官用薬	消化器官用薬	外皮用薬	ビタミン剤	血液・体液用薬	その他の代謝性医薬品	アレルギー用薬	抗生物質製剤	その他
盛岡	86.0%	76.4%	91.3%	91.5%	90.3%	59.0%	97.1%	98.0%	85.5%	87.3%	73.6%	81.7%
岩手中部	88.8%	85.4%	93.5%	94.0%	90.4%	61.1%	96.6%	97.4%	89.1%	88.3%	77.4%	83.7%
胆江	87.2%	76.8%	93.0%	92.5%	91.7%	64.9%	93.8%	98.5%	88.5%	86.8%	86.1%	82.7%
両磐	87.7%	82.5%	91.6%	90.3%	91.8%	67.1%	98.1%	98.4%	83.1%	86.3%	77.1%	79.8%
気仙	90.7%	84.0%	94.9%	92.4%	91.7%	86.5%	99.5%	98.6%	86.7%	85.5%	92.5%	84.0%
釜石	87.6%	73.5%	94.2%	94.0%	88.1%	77.3%	99.3%	97.9%	88.6%	85.7%	87.8%	85.4%
宮古	85.1%	79.9%	92.4%	92.9%	85.0%	58.8%	96.9%	90.9%	77.7%	82.3%	81.1%	81.9%
久慈	92.5%	91.2%	95.7%	92.8%	92.8%	78.5%	98.9%	98.2%	91.7%	93.3%	90.0%	84.2%
二戸	87.8%	81.8%	94.7%	79.7%	83.5%	70.5%	98.4%	98.9%	82.3%	84.6%	79.9%	88.9%
計	87.3%	79.8%	92.6%	91.3%	90.2%	63.8%	97.1%	97.8%	86.1%	87.1%	78.3%	82.6%

○参考：医薬品数量構成割合（薬効分類2桁別）

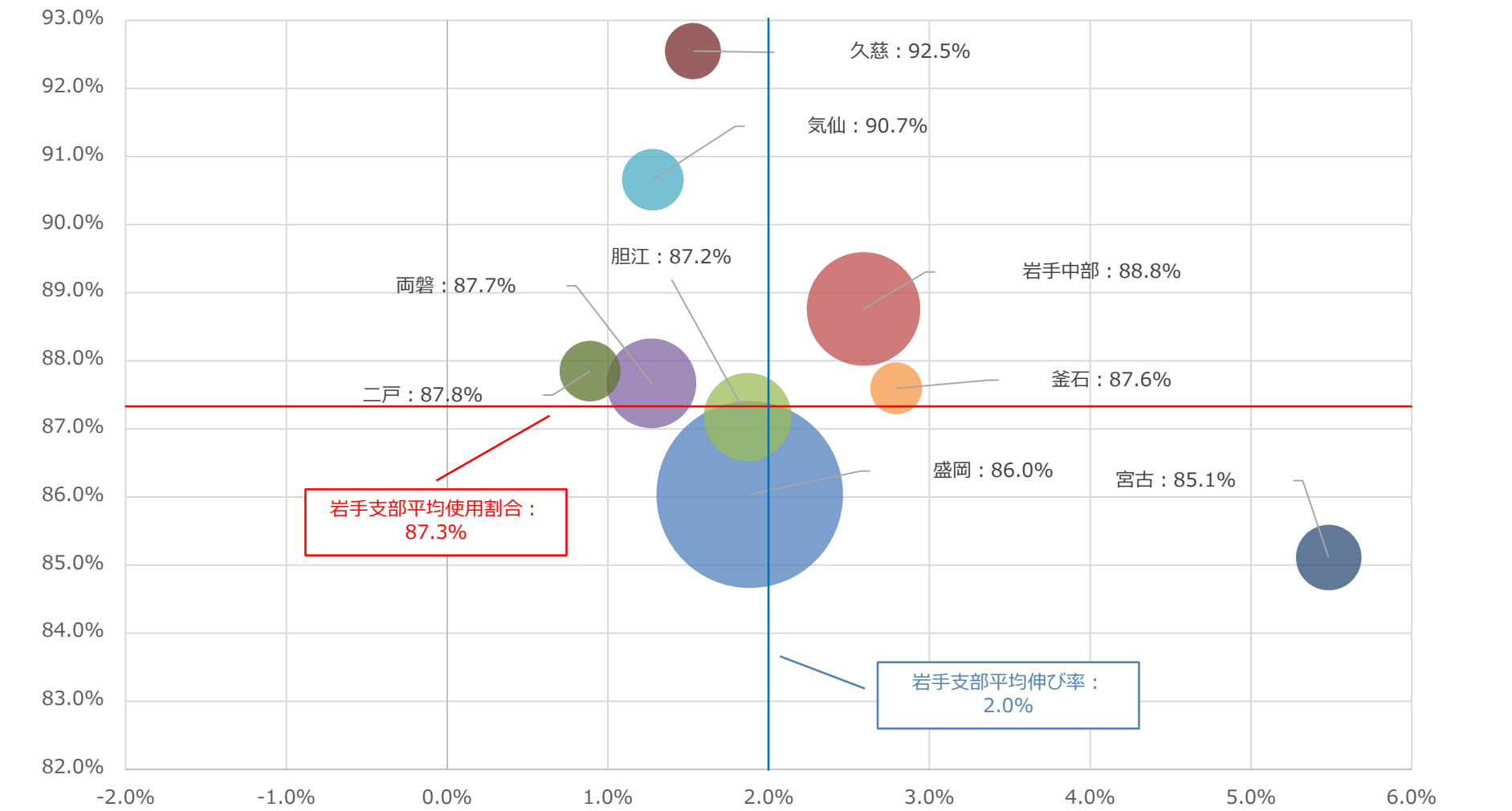


※地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
※令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
※数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
※ジェネリック医薬品割合は、数量ベースにて算出。後発品数量 ÷（後発のある先発品数量 + 後発品数量）
※医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。
※二次医療圏に関する情報は、令和元年10月1日時点のものとする。

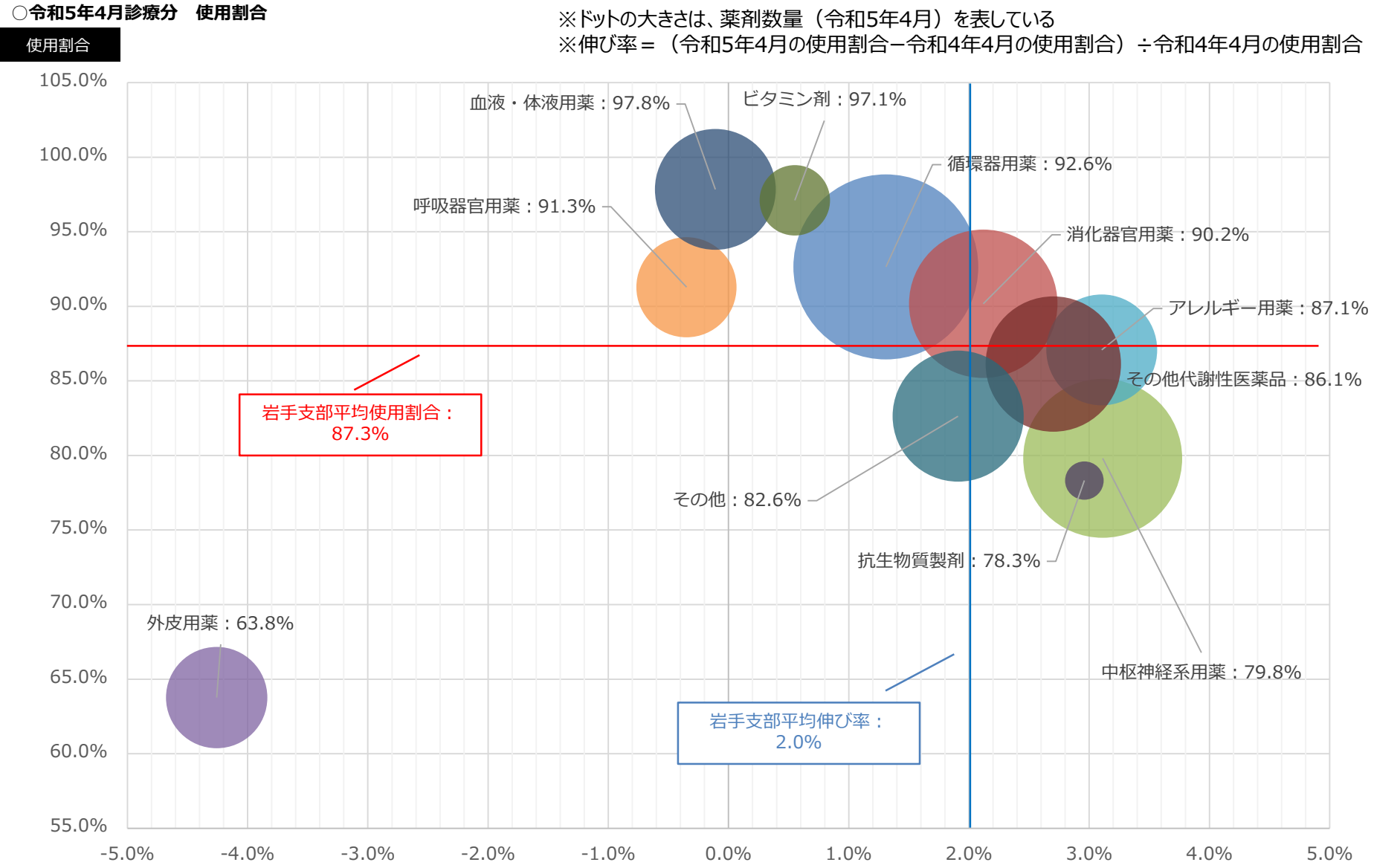
○令和5年4月診療分 使用割合

※ドットの大きさは、薬剤数量（令和5年4月）を表している
※伸び率 = （令和5年4月の使用割合－令和4年4月の使用割合）÷令和4年4月の使用割合

使用割合



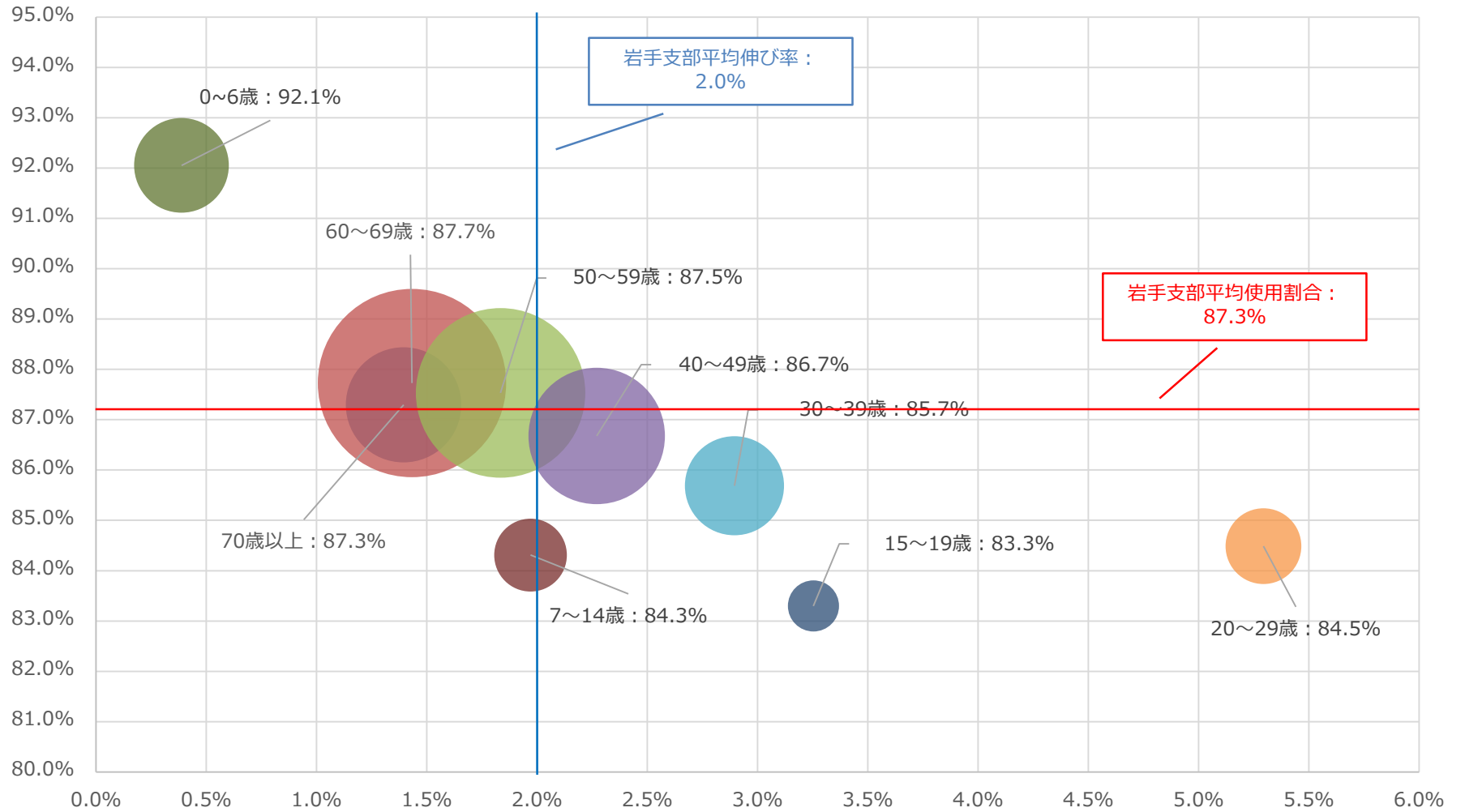
※地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
※令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
※数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
※ジェネリック医薬品割合は、数量ベースにて算出。後発品数量 ÷ （後発のある先発品数量 + 後発品数量）
※医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。
※二次医療圏に関する情報は、令和元年10月1日時点のものとする。



※地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
※令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
※数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
※ジェネリック医薬品割合は、数量ベースにて算出。後発品数量 ÷ (後発のある先発品数量 + 後発品数量)
※医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。

○令和5年4月診療分 使用割合
使用割合

※ドットの大きさは、薬剤数量（令和5年4月）を表している
※伸び率 = （令和5年4月の使用割合 - 令和4年4月の使用割合） ÷ 令和4年4月の使用割合



※地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
※令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
※数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
※ジェネリック医薬品割合は、数量ベースにて算出。後発品数量 ÷ （後発のある先発品数量 + 後発品数量）
※医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。

伸び率

ジェネリックカルテ（診療種別）

※令和5年4月診療分

都道府 県名 (※1)	【医療機関の視点】																							
	院内処方											院外処方												
	院内処方ジェネリック医薬品使用割合											院内処方 率 (※6)	院外処方ジェネリック医薬品使用割合								一般名処方率 (※7、14)			
	入院		外来		病院		診療所		病院		診療所				病院		診療所							
	偏差値 (※12)	偏差値	影響度 (※13)	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度		偏差値	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	
岩手	67	63	+ 0.7	61	+ 0.0	62	+ 0.7	66	+ 0.2	60	+ 0.4	57	68	+ 3.2	67	+ 0.9	67	+ 2.3	58	-	49	-	62	-

【薬局の視点】				【患者の視点】			
調剤ジェネリック 医薬品使用割合 (院外処方再掲)		一般名処 方限定調 剤ジェネ リック医 薬品使 用割合 (※8)	院外処方 率 (※9)	加入者ジェネリッ ク拒否割合 (※10、14)	全保険者とのジェ ネリック医薬品使 用割合の乖離 (※11)		
偏差値	影響度	偏差値	偏差値	偏差値	影響度	偏差値	指標数値
68	+ 3.2	66	57	66	-	55	+ 0.7

- ※1 地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
- ※2 令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
- ※3 数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
- ※4 ジェネリック医薬品使用割合は「後発品数量 ÷ (後発のある先発品数量 + 後発品数量)」で算出
- ※5 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。
- ※6 実質院内処方率として、医薬品処方数量に基づいて算出している。(院内処方医薬品数量) / (院内処方医薬品数量 + 院外処方医薬品数量)
- ※7 実質一般名処方率として、一般名処方加算にヒモ付くレセプト数に基づいて算出している。(一般名処方加算1または2が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプトの数) / (調剤レセプトの数)
- ※8 一般名処方加算1が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプトのみを集計対象とする。
- ※9 実質院外処方率として、医薬品処方数量に基づいて算出している。(院外処方医薬品数量) / (院内処方医薬品数量 + 院外処方医薬品数量)
- ※10 (調剤レセプトの加入者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数) / (一般名処方加算が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプト数)
- ※11 厚労省「調剤医療費の動向～令和3年度版～」制度別後発医薬品割合（数量ベース）（都道府県別）より、協会一般と全保険者のジェネリック医薬品使用割合の差分。
- ※12 偏差値は全国における県の位置づけを表す。
- ※13 影響度は偏差値50からの差分が、県全体のジェネリック医薬品使用割合に与える影響を示す。例えば、影響度が-1.0ならば、当該指標が県全体のジェネリック割合を1.0ポイント引き下げている。また、影響度は、該当指標の全体平均からの差分に数量構成割合の比率を乗じて算出している。数量構成割合は地域によって異なるため、全体の影響度とその内訳の合計は必ずしも一致しない。
- ※14 一般名処方率、加入者ジェネリック拒否割合の影響度は全国傾向に基づいた推計値のため、母数が少ない地域では大きな誤差が生じる可能性がある。

ジェネリックカルテ（年代別）

※令和5年4月診療分

都道府 県名 (※1)	【年代別】(※2、3、4、5)																
	総計	0～6歳			7～14歳			15～39歳									
								15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳	
	偏差値	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度
岩手	67	74	+ 0.7	66	+ 0.2	58	+ 0.3	62	+ 0.1	53	+ 0.0	56	+ 0.0	55	+ 0.0	62	+ 0.1

40～59歳										60歳以上							
		40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳				60～64歳		65～69歳		70歳以上	
偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度
65	+ 1.5	61	+ 0.2	65	+ 0.4	65	+ 0.4	66	+ 0.5	66	+ 1.9	65	+ 0.7	66	+ 0.6	67	+ 0.6

【参考】沖縄支部（全国1位）と徳島支部（全国47位）の状況 [39歳まで]

都道府 県名 (※1)	【年代別】(※2、3、4、5)																
	総計	0～6歳			7～14歳			15～39歳									
								15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳	
	偏差値	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度
徳島	24	57	+ 0.2	42	- 0.1	17	- 1.2	28	- 0.1	21	- 0.2	10	- 0.2	16	- 0.3	20	- 0.3
沖縄	78	71	+ 1.0	75	+ 0.5	72	+ 0.8	73	+ 0.1	66	+ 0.1	63	+ 0.1	75	+ 0.2	76	+ 0.3

ジェネリックカルテ（二次医療圏別）

※令和5年4月診療分

二次医療圏名 (※1、14)	ジェネリック医薬品使用 割合(全体) (※2、3、4、5)		【医療機関の視点】																				
			院内処方										院外処方										
			院内処方ジェネリック医薬品使用割合										院外処方ジェネリック医薬品使用割合										
			入院		外来		病院		診療所		院内処 方率 (※6)	病院		診療所		一般名 処方率 (※7、 13)	病院	診療所					
			偏差値 (※11)	影響度 (※12)	偏差値 (※11)	影響度 (※12)	偏差値 (※11)	影響度 (※12)	偏差値 (※11)	影響度 (※12)		偏差値 (※11)	影響度 (※12)	偏差値 (※11)	影響度 (※12)				偏差値 (※11)	影響度 (※12)			
盛岡	44	-0.54	47	-0.14	45	-0.02	47	-0.14	43	-0.08	48	-0.07	49	44	-0.43	39	-0.23	47	-0.21	45	-0.30	39.0	49.7
岩手中部	57	+0.23	57	+0.10	59	+0.01	56	+0.09	58	+0.01	59	+0.08	58	52	+0.06	58	+0.05	50	-0.00	45	-0.11	50.2	42.2
胆江	49	-0.02	46	-0.08	47	-0.00	47	-0.06	56	+0.00	47	-0.05	40	61	+0.16	56	+0.03	59	+0.13	61	+0.13	66.5	53.3
両磐	52	+0.03	54	+0.06	67	+0.01	53	+0.05	55	+0.01	54	+0.05	46	51	+0.02	47	-0.02	52	+0.03	63	+0.16	56.0	60.0
気仙	65	+0.16	65	+0.04	72	+0.00	64	-0.04			66	+0.02	65	58	+0.08			59	+0.07	65	+0.11	66.6	58.9
釜石	51	+0.01	34	-0.03	48	-0.00	31	-0.03	30	-0.03	49	-0.00	65	50	+0.00	53	+0.01	49	-0.00	47	-0.01	69.6	38.9
宮古	40	-0.11	52	+0.02	48	-0.00	53	+0.02	59	+0.01	53	+0.02	38	37	-0.11	58	+0.03	30	-0.13	46	-0.03	66.3	39.3
久慈	74	+0.21	62	+0.09	53	+0.00	62	+0.09	59	+0.06	60	+0.02	41	74	+0.15	73	+0.07	69	+0.09	40	-0.05	54.0	44.0
二戸	52	+0.02	36	-0.06	40	-0.00	38	-0.06			29	-0.06	58	59	+0.07			52	+0.01	67	+0.11	47.3	69.5

●気仙圏域・二戸圏域の「病院」については、病院数が3以下であるため表示していません。

【薬局の視点】			【患者の視点】		
調剤ジェネリック医薬品 使用割合 (院外処方再掲)	一般名 処方限 定調剤 ジェネ リック 医薬品 使用割合 (※8)	院外処 方率 (※9)	加入者ジェネリック拒否 割合 (※10、13)	偏差値	影響度
偏差値	影響度	偏差値	偏差値	偏差値	影響度
44	-0.43	44	49	43	-0.44
52	+0.06	57	58	61	+0.28
61	+0.16	60	40	63	+0.18
51	+0.02	39	46	47	-0.04
58	+0.08	60	65	47	-0.02
50	+0.00	49	65	44	-0.03
37	-0.11	66	38	54	+0.03
74	+0.15	71	41	69	+0.11
59	+0.07	47	58	37	-0.09

- ※1 地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
- ※2 令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。
- ※3 数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。
- ※4 ジェネリック医薬品使用割合は「(後発品のある先発品数量 + 後発品数量) / (後発品のある先発品数量 + 後発品数量)」で算出
- ※5 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。
- ※6 実質院内処方率として、医薬品処方数量に基づいて算出している。(院内処方医薬品数量) / (院内処方医薬品数量 + 院外処方医薬品数量)
- ※7 実質一般名処方率として、一般名処方加算にヒモ付くレセプト数に基づいて算出している。(一般名処方加算1または2が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプトの数) / (調剤レセプトの数)
- ※8 一般名処方加算1が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプトのみを集計対象とする。
- ※9 実質院外処方率として、医薬品処方数量に基づいて算出している。(院外処方医薬品数量) / (院内処方医薬品数量 + 院外処方医薬品数量)
- ※10 (調剤レセプトの加入者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数) / (一般名処方加算が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日、医療機関、処方月がヒモ付く調剤レセプト数)
- ※11 偏差値は県における二次医療圏の位置づけを表す。
- ※12 影響度は偏差値50からの差分が、県全体のジェネリック医薬品使用割合に与える影響を示す。例えば、影響度が-1.0ならば、当該指標が県全体のジェネリック割合を1.0ポイント引き下げている。また、影響度は、該当指標の全体平均からの差分に数量構成割合の比率を乗じて算出している。数量構成割合は地域によって異なるため、全体の影響度とその内訳の合計は必ずしも一致しない。
- ※13 一般名処方率、加入者ジェネリック拒否割合の影響度は全国傾向に基づいた推計値のため、母数が少ない地域では大きな誤差が生じる可能性がある。
- ※14 二次医療圏に関する情報は、令和元年10月1日時点のものとする。

ジェネリックカルテ（薬効分類別）

※令和5年4月診療分

都道府県名 (※1)	【薬効別】(※2、3、4、5、6)																				
	総計	循環器官用薬		中枢神経系用薬		消化器官用薬		外皮用薬		アレルギー用薬		その他の代謝性医薬品		呼吸器官用薬		感覚器官用薬		抗生物質製剤		その他	
	偏差値 (※7)	偏差値	影響度 (※8)	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度
3 岩手	67	67	+ 1.2	63	+ 0.8	63	+ 0.3	56	+ 0.2	65	+ 0.5	64	+ 0.3	69	+ 0.5	60	+ 0.1	55	+ 0.0	59	+ 0.2

【参考】沖縄支部・徳島支部の状況

都道府県名 (※1)	【薬効別】(※2、3、4、5、6)																					
	総計	循環器官用薬			中枢神経系用薬		消化器官用薬		外皮用薬		アレルギー用薬		その他の代謝性医薬品		呼吸器官用薬		感覚器官用薬		抗生物質製剤		その他	
	偏差値 (※7)	偏差値	影響度 (※8)	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	偏差値	影響度	
徳島	24	28	- 1.4	20	- 1.9	26	- 0.6	21	- 1.1	41	- 0.4	25	- 0.5	57	+ 0.1	35	- 0.1	33	- 0.1	23	- 0.6	
沖縄	78	75	+ 1.6	71	+ 1.2	77	+ 0.4	78	+ 0.9	74	+ 0.7	76	+ 0.6	72	+ 0.9	83	+ 0.2	76	+ 0.2	73	+ 0.6	

※1 地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。

※2 令和5年4月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを集計対象とする。

※3 数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。

※4 ジェネリック医薬品使用割合は「後発品数量 ÷ (後発のある先発品数量 + 後発品数量)」で算出

※5 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和5年6月16日適用）」による。

※6 薬効は、数量（後発あり先発品 + 後発品）の多い9薬効、それ以外を「その他」で集約している。また、薬効毎の代表医薬品は、マイナス影響度の高い3 医薬品を表示している。

※7 偏差値は全国における県の位置づけを表す。

※8 影響度は偏差値50からの差分が、県全体のジェネリック医薬品使用割合に与える影響を示す。例えば、影響度が-1.0ならば、当該指標が県全体のジェネリック割合を1.0ポイント引き下げている。

- 都道府県支部別に使用割合をみると、岩手支部の使用割合は86.7%に達し全国4位となっており、国の目標値80%（令和6年3月まで）を上回っているが、対前年同期差は令和4年8月を境に、増加傾向に転じている。（2ページから4ページ）
- 年齢階層別にみると、岩手支部は0-4歳の使用割合が最も高く、5歳から44歳の使用割合は岩手支部平均より低く、薬剤数量構成割合も小さい。薬剤数量構成割合は60歳以上で沖縄支部や全国平均を上回る。（5ページ）
- 薬効分類別にみると、岩手支部は「外皮用薬」の使用割合が最も低い。「腫瘍用薬」、「化学療法剤」については、沖縄支部より使用割合は高いが、薬剤数量の構成割合では、沖縄、岩手、徳島支部ともに非常に小さい。（6ページ）
- 二次医療圏・薬効分類別に使用割合をみると、「中枢神経系用薬」、「外皮用薬」、「その他の代謝性医薬品」、「アレルギー用薬」、「抗生物質製剤」の平均使用割合が全体（全薬効）の平均使用割合より低い。（7ページ）
- 二次医療圏別伸び率では、「宮古」、「釜石」、「岩手中部」において、岩手支部平均伸び率を上回る。（8ページ）
- 薬効分類別伸び率をみると、「血液・体液用薬」、「呼吸器官用薬」、「外皮用薬」で伸び率がマイナスになっている。二次医療圏別にみると使用割合の大小を問わず、おおむね1～2%の伸びがみられる。また、薬効分類別では使用割合が高い薬効分類については伸び率が小さく、使用割合の低い「抗生物質製剤」、「中枢神経系用薬」については伸び率が高い。年代別では使用割合の大小を問わず、おおむね1～3%前後の伸びがみられるが、「20～29歳」は伸びが5.3%と高い。（9ページから10ページ）
- ジェネリックカルテ（診療種別）をみると、病院の「一般名処方率」を除き、偏差値が50以上となっている。（11ページ）
- 年代別をみると、0歳から6歳までの年代が偏差値70を超えており、全国1位の沖縄支部と同様に偏差値が高い状況にある。15歳以降については、沖縄支部と比べて10%ポイント程度低い。（12ページ）
- 二次医療圏別をみると、盛岡圏域、宮古圏域のマイナスの影響度が大きい。特に「院外処方」のマイナス影響度が大きい。（13ページ）
- 薬効分類別では、沖縄支部と比べて「外皮用薬」、「感覚器官用薬」、「抗生物質製剤」が20%ポイント以上低い。（14ページ）